

高隈演習林の教育関係共同利用拠点第三期が認可されました

鹿児島大学農学部附属演習林

高隈演習林（以下、本演習林）の教育関係共同利用拠点第三期（令和5年度～令和10年度：5年間）が文部科学省から認定を受けました。森林面積3,068ヘクタールという広大なフィールドを有する本演習林は、平成26年度から第一期が始まりました。本演習林は国内外や文理系からの利用を促進することによって、高等教育機関の林業技術の実践的実習や環境教育等の場として多様な利用ができる拠点の実現に取り組んで参りました。それに伴い、利用者の拡大と受入れ体制の拡充に取り組み、多くの利用者数から利用していただけるようになりました。

平成31年（令和元年）度からの第二期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を強く受けつつも、それまでの受入分野であった①林業教育分野、②環境教育分野、③防災教育分野、④動植物教育分野に、⑤地域コミュニティ分野を追加し、農山村での生活体験などを加えるなど、利用者からの様々な要望に応えながら展開させてきました。日帰りの利用はもちろんですが、宿泊型の拠点として利用が多い本演習林は、感染症拡大防止対策として、施設内における消毒の設置や段ボールパーテーションの設置等の設備対策を行いました。それだけでなく、ソフト対策として検温やPCR検査の導入による健康状態チェックやプログラムの調整等をいち早く実施することによって、利用者の不安を取り除きながら拠点の活用を維持する体制づくりをすすめ、非常時でも全国から訪問できるような受入れに積極的に取り組みました。

そして、第三期は「多世代・多様なひとと磨き合う学びと出会いの森拠点」として、第二期の受入れ分野であった5つの分野を継続・発展させ、各分野で様々な人達が交流しながら学びを深める場づくりを目指していきたいと考えています。具体的には、本演習林が実施してきた社会人リカレント教育や幼児教育・初等教育、地域との連携などの取組を教育関係共同利用のプログラムと連携させていきます。

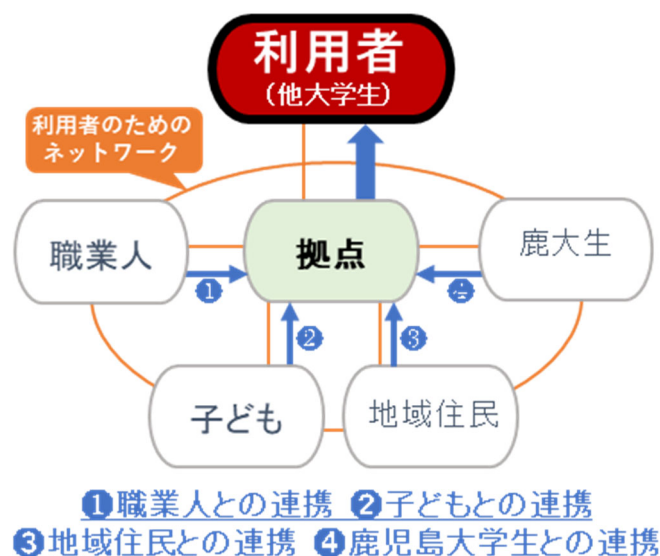


図1 第三期教育関係共同利用拠点（本演習林）における利用者のためのネットワーク

このような連携の取組みは大学生や社会人だけでなく、現役を引退し第二の人生に向けて新しいことを学び直す高齢の方から初めて森を訪れる小学生や園児までの幅広い世代間交流を促進し、

多様な利用を継続しつつも教育効果を高める拠点として一層の充実を図ることを目指しています。また、専門性の高いプログラムにおいては、林業のプロだけでなく林学の初学者といった様々な立場の方々との交流を促進していき、学生が既存の価値観に縛られず新しいネットワークを自ら紡いでいくことを期待しています。このように、プログラムの連携によって多世代・多様な人との交流の場を形成し、複合的で相乗効果のある質の高い教育プログラム提供を実践することを掲げ、第三期の初年度となる令和6年度以降は、学生、社会人、地域、小学生など多くの方を対象とした実習プログラムを企画し、本演習林が蓄えてきた豊かな森林資源とネットワークを活かした教育的交流の場を育んでいく予定です。



写真1 職業人との連携



写真2 子どもおよび地域との連携



写真3 鹿児島大学生との連携